

福音主義の聖書釈義 (outline)

津村俊夫

はじめに① 1985-2014 30年間

【福音主義】とは

福音派と福音主義

文化相対主義の「ポスト・モダン」と言われる時代の中で、聖書の権威についての考え方が問われている

「聖書は神のことばである」で十分か。靈感の教理と無誤性：聖書批評学の役割

聖書：「人間のことばで書かれた神のことば」

言語靈感：「ことば」灵感

無誤性：“誤りなき”の意味を整理しておく必要

【聖書釈義】とは

「聖書の究極の著者である神が、人間の著者を通して伝えようと意図された意味を理解するために、忍耐強く聖書テキストに聞き続けること」

書かれたテキストとしての「聖書」の特徴

「読み出すこと」(exegesis)の大切さ

本文批評の重要性

autographへのこだわり

MT-LXX-DSS

2 Sam 22 // Ps 18

安易な本文修正を避けるために

Linguistic variantsの可能性②

「歴史的・文法的釈義」の再定義の必要性

【聖書批評学】の位置づけが今も問題

通時論から共時論へのシフト

プロセスより、プロダクトに

「歴史的批評的アプローチ」：もはや絶対的ではない

五書研究 JEDP 資料説③⑦⑧

“D”と歴代誌

史実性(historicity)よりも歴史記述(historiography)を重視

「申命記史家」とサムエル記の著者④

詩篇研究 「ダビデの著者性」とは⑤

史実性(historicity)よりも歴史記述 (historiography)を重視

歴史に対する不可知論へ

Reception history

最終形態 (final form)

言語に対する機械的理解

著者への関心を持たない時代

著者問題：だれが(WHO)、いつ(WHEN)、どこで(WHERE)

記述の問題：いかに(HOW)、なぜ(WHY)

内容の理解：何が書かれているか(WHAT)

【ポストモダンの解釈学】⑥

「解釈」がすべて？

著者の地平が無視された解釈

共時性・通時性・歴史性

通時性：not 歴史性 = 「時空性」

intertextuality の功罪

Deconstruction: Derrida's approach

【イスラエルの宗教】・【釈義】・【聖書神学】

宗教史と「啓示」の歴史

宗教と宗教文書の解釈 ⑨⑩

カナン宗教とウガリト文書⑪

豊穰儀礼

死者儀礼

祖先崇拜と太陽信仰

「教義」と「釈義」の間：*creatio ex nihilo* の場合⑫

「無からの創造」か、「混沌から秩序へ」か

「混沌伝承」を巡る論争⑬

創世記 1:2 *tohu wabohu* の意味⑭⑮

詩篇 74 の「ドラゴン伝承」

「聖書神学」と釈義⑯

旧約と新約の関係 [例] ハバクク書 2 章 4 節の釈義⑰⑱

【考古学と聖書】：「聖書の世界としての古代オリエント」⑱⑲

contextual アプローチ

言語内コンテキスト

言語外コンテキスト

comparative アプローチ

類似性：セム語、オリエント文化共通の特徴

contrastive アプローチ

相違点：啓示による特別な意味づけ、ことばの意味

「テキストそのものから離れない」ために

散文と詩文（韻文）

literary study, poetics, "style and grammar"

brachylogy & idiom⑳④

word pair : hyponymous

修辭的挿入(literary insertion)㉑

並行法(parallelism)の文法㉒㉓

Vertical grammar㉔

Janus parallelism㉕

「談話文法」(discourse grammar) : supra-sentential

Tense and aspect㉖㉗

話者志向的助辞 (particles) : ki, al-ken㉘

Semitic thinking and expression

Non IE language

聖書テキストの「聴覚性」(aurality)

aural text

Phonetic spelling : 文字と音の関係㉙

Sandhi (連声)㉚

misspelling (誤記)

テキストにどこまでも忍耐深く「聞き続ける」こと㉛

一次資料(primary sources)を読む力を養い続けること.

正しい「批評的思考力」(Critical thinking)を培うこと

【釈義と聖書翻訳】

次世代の担い手の「読む力」を養成：聖書翻訳は100年計画

<参考文献> (拙著)

- ① 第3回神学研究会議 (1985.11-25-27)・発題講演 「福音主義の聖書解釈 --- その方法論の確立をめざして」 『福音主義神学』 17 (1986), 40-57.
- ② "Textual Corruptions, or Linguistic Phenomena? --- The Cases in 2 Samuel (MT) ---" VT 64 (2014), 135-45.
- ③ 『創造と洪水』 日本聖書協会, 2006.
- ④ 1 Samuel (NICOT) (Grand Rapids: Eerdmans, 2007) Introduction
- ⑤ 「古代オリエントの表題付きの詩歌」 *Exegetica* 3 (1992), 1-7.
- ⑥ 「『ポストモダン』の聖書解釈 --- 特にインターテクスチュアリティ (間テキスト性) について」 『福音主義神学』 30 (1999), 23-34.
- ⑦ 「『語り』における『表』の位置付けについて --- I サムエル記6章17節-18節aの『項目+数詞 "1" タイプの表 --- 』」 *Exegetica* 10 (1999), 89-106.
- ⑧ 「サムエル記における『新月祭』と『安息日』」 *Exegetica* 6 (1995), 77-99.
- ⑨ 「古代イスラエルにおける子牛崇拜」 *Exegetica* 22 (2011), 1-18.
- ⑩ 「ヤハウエと彼のアシェラ -古代イスラエルにおける一神教と多神教-」 『旧約学研究』 3 (2006), 1-15.
- ⑪ "Kings and Cults in Ancient Ugarit," in *Priests and Officials in the Ancient Near East*, ed. by Kazuko Watanabe (Heidelberg: C. Winter, 1999), 215-38.
- ⑫ 「ハバクク書における義の問題」 『福音主義神学』 22 (1991), 50-70.
- ⑬ 「ハバクク書2・4aの釈義的考察」 『途上』 15 (1985), 1-26.
- ⑭ "A Biblical Theology of Water: Plenty, Food and Drought in the Created Order" in *Keeping God's Earth: The Global Environment in Biblical Perspective*, eds. by Noah J. Toly & Daniel I. Block (Downers Grove, IL: IVP Academic, 2010), 165-84.
- ⑮ 「創世記1章2節の所謂「混沌」について」 『聖書の使信と伝達 --- 関根正雄先生喜寿記念論文集』 (山本書店, 1989), 9-31.
- ⑯ 「『無からの創造』の教理とトーフー・ワ・ポーファー」 秦剛平・守屋彰夫編『古代世界におけるモーセ五書の伝承』 (京都大学学術出版会, 2011), 33-60.
- ⑰ "The « Chaokampf » Motif in Ugaritic and Hebrew Literatures ", in J.- M. Michaud (ed), *Le Royaume d'Ougarit de la Crète à l'Euphrate. Nouveaux axes de Recherche* (Proche-Orient et Littérature Ougaritique II; Sherbrooke: GGC, 2007), 473-499.
- ⑱ K. A. キッチ著, 津村俊夫訳 『古代オリエントと旧約聖書』 いのちのことば社 1979.
- ⑲ "Genesis and Ancient Near Eastern Stories of Creation and Flood: An Introduction," in Richard S. Hess & David Tsumura (eds.), *"I Studied Inscriptions from Before the Flood" : Ancient Near Eastern, Literary, and Linguistic Approaches to Genesis 1-11* (Eisenbrauns, 1994), 27-57.

- ⑳ 「主の名を唱える? — 出エジプト記 20:7」 *Exegetica* 23 (2012), 1-13.
- ㉑ 「聖書ヘブル語における修辭的挿入 (AXB パタン)」 *Exegetica* 15 (2004), 101-20 [Japanese translation of "Literary Insertion (AXB Pattern) in Biblical Hebrew," *Vetus Testamentum* 33 (1983), 468-482].
- ㉒ 「並行法の文法」 *Exegetica* 18 (2007), 91-110.
- ㉓ "Parallelism" in *Encyclopedia of Hebrew Language and Linguistics*. Vol. 3 (P-Z) (Leiden: Brill, 2013), 15-19.
- ㉔ "Vertical Grammar of Parallelism in Hebrew Poetry," *JBL* 128 (2009), 167-81.
- ㉕ "Janus Parallelism in Hab. III 4," *VT* 54 (2004), 124-28 [Reprinted in *Vetus Testamentum IOSOT* (2013), 113-116].
- ㉖ 「2 サムエル記 7 章 8-16 節 における動詞のテンス」 *Exegetica* 15 (2004), 17-28.
- ㉗ "Tense and Aspect of Hebrew Verbs in II Samuel vii 8-16 --- from the Point of View of Discourse Grammar* ---" *VT* 60 (2010), 641-54.
- ㉘ 「話者志向的 *ki* と一人称単数・完了形・動詞」 *Exegetica* 16 (2005), 1-12.
- ㉙ "Scribal Errors or Phonetic Spellings? Samuel as an Aural Text," *Vetus Testamentum* 49 (1999), 390-411.
- ㉚ "Vowel sandhi in Biblical Hebrew," *ZAW* 109 (1997), 575-588.
- ㉛ *Creation and Destruction: A Reappraisal of the Chaokampf Theory in the Old Testament*. Winona Lake: Eisenbrauns, 2005.
- ㉜ 「主が七日目に休まれた (וַיִּנַח בַּיּוֹם הַשְּׁבִיעִי) の意味」 *Exegetica* 24 (2013), 37-48.

(2014.5.1)